



日本の知恵、  
プラスチックの知恵

# 市場を動かす情報も、 脚で運んだ飛脚ひきやく

五街道や宿場といった、交通基盤が整い始めた江戸時代に活躍したのが飛脚。この五街道の起点となった江戸の日本橋界限は、多くの飛脚屋で賑わっていたそうです。書状や金品、農産物の運搬から、米相場などの市場動向、地震や洪水、戦いくさに関する情報の伝達者としても活躍しました。

京の「順番飛脚」、大坂の「三度飛脚」、江戸の「定飛脚」は、それぞれ定期便として運行され、特に大坂から江戸に下る飛脚の発達が、為替などの仕組みを生んだとも言われています。通常、この二都間は片道1週間、早飛脚と呼ばれた急ぎ便では3日間で運ばれました。こうして、品物やさまざまな情報も運んだ飛脚。そのスピーディーな働きは次世代の光電気複合配線モジュールとして、高速で省エネ・省スペース化、大容量のデータ伝送を可能にした「光導波路」の発想にも似ています。



光導波路フィルム



プラスチックのパイオニア

 住友ベークライト株式会社

光電気複合インターポーザ事業開発推進部

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目5番8号 天王洲パークサイドビル  
TEL:03-5462-4264 FAX:03-5462-4883 <http://www.sumibe.co.jp>